

もものせん孔細菌病に注意しましょう

(平成27年4月27日)

今年の4月後半の巡回調査では、もものせん孔細菌病の発生が例年より早く、ほ場全般で見られ、一部では多発傾向にあります。今後の天候により、発生がさらに増加する可能性があります。
ほ場をよく見回り、発生が認められる園では防除を行いましょう。

<発生状況>

表1 せん孔細菌病の発生状況(4月22日調査)

| | 発病葉率 | 発病ほ場数／調査ほ場数 |
|------------|-------------|-------------|
| 河内長野市 小山田町 | 56.7%(2.2%) | 3／3 |
| 岸和田市 包近町 | 11.3%(－) | 3／3 |

()内は平成17～26年の平均値



▲4月22日の発生状況

▲もも果実の被害

<生態と防除対策>

- (1) 病原は細菌(バクテリア)で *Xanthomonas campestris* pv. *pruni* (Smith)Dye を始めとした3種の病原菌がある。
- (2) 発病葉や発病枝は伝染源となるので、樹体に影響しない範囲で切除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- (3) 病原菌は葉、枝、果実の開口部(気孔、水孔等)や傷口から侵入する。風当たりの強い園では防風ネット等設置する。
- (4) 今後、特に5月以降の降雨により、発病枝等から病原細菌が流れ出て、雨滴に混じって分散し、果実に発病する危険性が高まるため、降雨前の予防散布が重要である。
- (5) 同一薬剤の連用は耐性菌の発現を助長する恐れがあるため、異なる成分のローテーション散布を行う。
- (6) 薬剤によっては、収穫の60日前までしか使用できないものもある。薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数を十分確認する。
- (7) 樹高の高い樹に散布する場合は、周囲に薬液が飛散しやすいので、特に注意する。

表2 ももの防除薬剤の例

| 薬剤名(成分名) | 希釈倍数 | 使用時期 | 使用回数 |
|--------------------------|---------------|------------|-------|
| マイコシールド (オキシテトラサイクリン) | 1,500~3,000 倍 | 収穫 21 日前まで | 5 回以内 |
| スターナ水和剤 (オキシロニック酸) | 1,000 倍 | 収穫 7 日前まで | 3 回以内 |
| バリダシン液剤5 (バリダマイシン) | 500 倍 | 収穫 7 日前まで | 4 回以内 |
| チオノックフロアブル (チウラム) | 500 倍 | 収穫 7 日前まで | 5 回以内 |

<防除上の注意事項>

- (1) 樹勢の衰弱、強風及び暴風は発病を助長する。
- (2) 品種によって発病に差がある。白鳳、砂子早生に多く、清水白桃は少ない。
- (3) 例年、発生が多い園では満開から30日後頃までに袋かけを行うと、果

実の感染予防に有効である。

(4) 多発する園では秋の防除が重要である。

(5) すももにも発病する(すもも黒斑病)。

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府農作物病虫害防除指針

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

で確認してください。